

L 国語問題

注意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべて黒鉛筆または黒芯のシャープペンシルで記入することになっています。黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は20ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は一〜三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷ついたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のように黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきらずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
○ 1
○ 2
● 3
○ 4
○ 5

(3と解答する場合)

一 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答题紙に書くこと)

どかん、と家を揺るような爆音に目を開けた。実家に戻っていることをすっかり忘れるくらいの深い眠りで、一瞬、自分がどこにいるのかまるでわからず、どかん、から続く爆音の正体がわからず、私は布団から飛びだして勢いよく襖ふすまを開け、木目の浮き上がった廊下を見て、ああ家だ、とようやく思い出し、どかん、ずずずすと続く爆音が聞き覚えのある音楽だと、廊下をうろうろと歩きまわっているうちに気がついた。

耳をふさぎながら階段の下を見おろす。音は居間から聞こえてくるようである。きつと野良猫があたりこんでいたずらをしてしているんだろう。ずっと昔そういうことがあった。凶々げうげうしくあがりこんできた野良猫が、何かの拍め子こにステレオセットの音量つまみを最大にして逃げていったことが。

とにかくこの爆音を消さないと。私は腹を抱え、よつちらよつちらと階段を下りる。勢いよく居間の戸を開くと、猫ではなく母が、居間の真ん中にちょこんと座っていた。正座して、何かを縫っている。ステレオセットの表示のなかで針がレッドゾーンを指している。

①
どずどすと母を押しつけるようにしてステレオセットまでいき、音量つまみをぐつと下げた。床(注2)にレコードジャケットやCDケースが散らばっている。すべて、私が高校生のころに聴いていたものだった。

②
「あんたのかもしれないけど、あんたは置いてったんじゃないの。置いてったものどうしようが、うちの勝手よでしよう」

母はドナるように言うと、ステレオの前に立つ私の足を押しつけるようにして、音量つまみをまたあげた。爆音が響く。あわてて私はそれを元に戻す。

③

いったい何がどうなっているのかわからないまま母に注意すると、はっ、と母は息を吐き出して笑い、

「近所ってどこだ」と言う。「隣の梅原さんちまでどのくらいあると思つとる。聞こえるもんか」また手を伸ばして音量を上げる。今度は、さつきよりはちいさかった。とはいえ、ライブハウスでかけてちようどいいくらいの大きさである。しかも、母がかけているのは、ニルヴァーナ(注3)なのだった。私が音量を下げないのを確認すると、母は背を丸め、作業の続きを開始する。母の周囲を見まわし、それから母の手に目を移し、母が何をしているのかを理解する。古い和服をほだいて、人形に着せるようなちいさな和服を縫っているのだった。しかし、そうとわかったところで、なぜ母がニルヴァーナを大音量で聴きながら人形の服を縫っているのかは、わからなかった。

「④」

ニルヴァーナを聴く母と何をどう会話していいのかわからず、そんなことを訊きいた。母は何も答えず、——驚いたことに、曲に合わせてちいさく歌い出した。デナイ、デナイ、デナイと、きつと意味もわからず。

デイナイル、デイナイル、デイナイル、デイナイル、と歌いながら、私は港へ向かう自転車を漕こいでいたものだった。温度の変わる暗いトンネルも、湖い面めんのような海も、名をつけたいくつもの島々も、鮮やかな蜜柑みかんの色も、全部ぜんぶ、大嫌いだつた。高校に通う交通手段が船しかないということも、恥ちずかしく、隠ひしたいことだった。船着き場に着くと、ウォークマン(注4)の音量を一気に上げて、いらいらと爪を噛かんで船を待った。イヤホンからしゃしゃりかした音が漏もれているのがわかつた。それがときおり人を苛いら立たせるのもわかつた。(1)それでも音を大きくせずにはいられなかつた。そうしていれば、船着き場のおばちゃんの話しかけてくる声も、高速艇のモーター音も、島のバスがならず幼稚な音楽も、聴かずにいられた。目を閉じて音楽を聴いていると、自分があたたかも、東京にいて、ラッシュの電車を待っているような気持ちになれた。高速艇のなかで目を閉じれば、ニューヨークの地下鉄に揺られている気分になれた。

東京ってどんなところだろうと、目を開けるたび私は考えた。あるいは、ニューヨークってどんなところだろう。ロンドンってどんなところだろう。そこに広がる空はぐんと狭くに違いなく、曇っているに違いなく、びっしり並ぶデパートにはお洒落しゃれな服がぶら下がっているに違いなく、そこを歩く私は悩みなんかないに違いなく、かつこいい恋人がいるに違いなく、なめらかに標準語をしゃべっているに違いなかった。

十八のとき、嬉々ききとして私は鳥を出た。東京駅のあまりの広さと混雑に泣きそうになった。山手線で途中下車して、トイレに駆けこんで吐いた。六畳一間のぼろアパートで、膝を抱えて洒落た恋愛ドラマを食い入るように見た。デパートのテナントになかなか入れず通路を幾度も行き来した。

今ではそんなことはない。銀座のブランド店にだつて入ることができる。広尾まで地下鉄をスムーズに乗りこなすことができる。東京駅でうろろするおばさんに舌打ちだつてする。

⁽²⁾ 私はもうウォークマンを必要としない。しゃかしゃかと音が漏れるほどの大音量で、外界と自分を隔てる必要がない。目を閉じ、音の洪水のなかで、訪れたことのない異国の地を思い浮かべる必要もない。

実家に戻って三日、⁽³⁾ だいたいのところはわかった。父が蜜柑工場に出かけたあとに、母は大音量で音楽をかける。そのすべてが、高校生のときに私が買い求めたCDやレコードである。

母は夕方までくりかえし音楽をかけながら、古い着物をほどこいて人形の服を作っている。三日間観察したところによると、家事のほとんどを母は放棄している。夕方には音楽を止め、ふらりと出ていくが、夕食の買いものではなく近所のおばちゃんたちとお茶を飲むためだ。夕食は外食か、父が買って帰るカップラーメンか弁当。洗濯はやむなく私がしているが、私の帰宅前は、父がしていた様子である。

田所のおばちゃん（三軒隣に住む母のいとこ）によると、今年のあたまから母はずっとそんなふうらしい。「熟年離婚って知つとる？」田所のおばちゃんは、船着き場近くの雑貨屋で買ったらしい金(注5)つばをすすめながら、声をひそめて言った。「去年になるかねえ、深刻な顔して、離婚したいんじゃないって、うちに打ち明けるわけよ。な

んでって訊いたら、いろんなことがいやになったって、それだけ。だから、離婚なんかやめとけって、うち言っ
てやったの。だつてこのあたりの島しか知らんに離婚してどこいくんよ。きちんと働いたこともないんじゃないし、
知らん土地で雇ってもらえるわけじゃないじゃない。それに、マサさんいい人じゃないの、無口で無愛想だけど、酒
飲みすぎることもないし、賭かごととするわけじゃないしねえ。だからね、離婚なんて面倒なことわざわざせんでも、
自分の世界を見つけないさいと言つてやったの。お給料もろうて、好きなことやつて、それでええじゃないの。な
ーんで、これね、新聞の人生相談欄に書いとつたの、受け売り⁽⁵⁾と、田所のおばちゃんは言うのだった。

田所のおばちゃんちの縁側に座つて、私は耳を澄ました。坂の下、竹林にサエギられて見えない我が家からは、
大音量のニルヴァーナは聞こえない。母が音量つまみを必要以上にまわしてニルヴァーナをかけていると気がつ
いたとき、私はとつさに、大音量で音楽を流し傷害罪で逮捕された中年女性を思いだし、ぞつとしたのだが、母
の音楽はどうやら、攻撃⁽⁴⁾ではなくて防御らしい。少なからずそのことに私は安堵どした。何からの防御なのか、今
ひとつわからないにしても。

「ところでよう、キヨちゃんよう、おばちゃんびつくりしてしもうたよ。ついこないだまで女子高生だったのに、
おかあさんらしい顔つきになつてしもうて。もう臨月近いんでしょ？ どこで産むん？ キヨちゃんをとりあげ
た重田さん、名産婆だつたけど、惚ほけてしもうとするしねえ。船で呉くれまでいくわけえ？ でも産氣うついて船待つわ
けにいかんでしよう。それからダンナさんはいつくるん？ 何をしとる人なん？ 写真を持っていないん？ ほ
ら携帯で撮る写真なんか」

父と母がなんにも訊かないかわりに、田所のおばちゃん⁽⁵⁾がなんでも訊いてくれる。私が母のことを田所のおば
ちゃんに訊くように、母もきつと田所のおばちゃん経由で私のことを知るのだろう。田所のおばちゃんがいな
つたら、私たちはどのようにしてコミュニケーションをとるのだろうかと、日のあたる縁側で田所のおばちゃん
に、つまりは母に聞かせるための嘘うそ八百を話しながら、私は考える。

田所のおばちゃんに金つばの札を言つて坂道を下る。途中、金本のおばさんとすれ違う。すっかりおばあさん

だ。腰を伸ばして「まあ、ほんまにおつきなおなかね！」と叫ぶように言った。私たちの家は今ではきつと島全土で有名だろう。母親は爆音で若い人の音楽を聴き、娘は夫も連れずはらぼてで帰ってきたと。ここはそういところなのだ。

(角田光代「ロック母」による)

(注) 1 ステレオセット——レコードやCDなどの音源を再生する装置。

2 レコードジャケット——レコードを収納する厚紙などでできた入れ物。

3 ニルヴァーナ——アメリカのロックバンド。

4 ウォークマン——一九八〇年代に普及したポータブルオーディオプレイヤー。

5 金つば——餡を小麦粉などの生地で包んで焼いた和菓子。

6 はらぼて——妊娠して腹が大きくなる様子。また、その人。

問

(A) 〓 線部イ・ロを漢字に改めよ。(ただし、楷書で記すこと)

(B) 空欄 ① 〓 ④ には、それぞれ次の a ~ d のどれが入る。それぞれに入るものの組み合わせとして適当なものを、後の 1 ~ 5 のうちから一つ選び、番号で答えよ。

a なーにやっつてんのよ、朝っぱらから大音量で。しかも私のCD

b おかあさん、なんでこんなものを聴いているの？

c こんな音じゃ、近所に迷惑だよ

d あー、何やっつてんのっ

1 ① a ② c ③ d ④ b

5	4	3	2
①	①	①	①
a	d	b	c
②	②	②	②
b	a	a	d
③	③	③	③
d	c	c	b
④	④	④	④
c	b	d	a

(C) 線部(あ)～(う)について。本文中の意味として最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、それぞれ番号で答えよ。

(あ) 拍子

- | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ぐあい | しるし | はずみ | リズム | ついで |

(い) 湖面のような

- | | | | | |
|--------|-------|--------|--------|--------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 波の穏やかな | 水深の浅い | 真水に見える | 水面の明るい | 水色の美しい |

(う) 受け売り

- | | | | | |
|-----------------------------|------------------------|---------------------------|--------------------|-------------------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ある考えがにわか特定の人人々に支持されるようになること | 広く周りの人々に自分の考えを強くすすめること | 自分が良いと思った考えをこっそり他人にすすめること | ある考えが広く社会的に一般化すること | 他人の考えをそのまま自分の考えのように言うこと |

(D) 線部(1)について。その理由として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 周囲の人を苛立たせたいという悪意を、どうしても抑えることができなかつたから。
- 2 大嫌いなものばかりの外の世界と自分を、音を使ってどうしても切り離れたかつたから。
- 3 おばちゃんの話や聞こえてくる幼稚な音楽が、聴くに堪えないほど恥ずかしかつたから。

- 4 想像の中の都会でのびのびと暮らしている私は、自由に大きな音で音楽を聴いていたから。
- 5 自分を取りまくあらゆるものに嫌悪感を抱いていることを、何かのかたちで示したかったから。

(E) ——— 線部(2)について。「必要」でなくなった背景の説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 大都会の生活になれて、ウォークマンの大音量がなくても都会の音の洪水の中で自由に生活している。
- 2 東京にとけこんで、思い描いていた都会の生活が現実のものとなり、大好きなものばかりに囲まれている。
- 3 自分をとりまくあらゆるものが大嫌いだっただのは昔のことで、大人になった今は大抵のことは許容できる。
- 4 東京になじんだ生活の中では、外界と自分を隔てて別の世界を夢見ることは重要でなくなっている。
- 5 都会での生活を経て、故郷の島に愛着を感じるようになり、島の生活を嫌悪する気持ちがなくなっている。

(F) ——— 線部(3)について。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 母が家事のほとんどを放棄するのは、父が仕事に出かける昼間の時間だった。
- 2 夕食の買い物などのごく簡単な役割を除いて、母は家事のほとんどを放棄していた。
- 3 母は一日中居間に閉じこもっており、近所の人々との交流もなるべく避けていた。
- 4 家事の多くを父に押し付けて、母はやりたくないことはやらない生活を繰り返していた。
- 5 母は家事のほとんどを放棄して、父と顔を合わせることを避ける一日を過ごしていた。

(G) ——— 線部(4)について。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 大音量の音楽は、周囲の人々に対する悪意によるものではなく、何かしらの救いを求める外部へのシグナルであるらしい。

2 大音量の音楽は、近隣などの外部に向けられたものではなく、自分の生きる領域を保持することに関係するものであるらしい。

3 大音量の音楽は、外部に危害を加えるための武器ではなく、外から侵入してくる何者かに脅しをかけるた

めの道具であるらしい。

4 大音量の音楽は、周りの誰かに聴かせるためにかけているのではなく、自分一人で聴いて楽しむものであるらしい。

5 大音量の音楽は、他人に対する配慮なしにかけられているわけではなく、近隣には聞こえない程度の音量が保たれているらしい。

(H) —— 線部(5)について。この表現に込められた「私」の気持ちとして最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 私の事情を知ろうとしない父母の代わりに事情を訊いてくれるのは助かるが、その好奇心の旺盛さをややうるさく感じている。

2 私のことにもまるで関心のない父母とは対照的に、私のことになんでも関心をもってくれる親切心に感謝している。

3 自分たちのことに精一杯で、私に気を配る余裕のない父母と私の間のコミュニケーションを成り立たせていることを不思議に感じている。

4 自分の周囲のことには何でも関心を持ち、熱心に情報を集めている田所のおばちゃんを持つ情報量に感心している。

5 母のことをなんでも私に話してくれるのと同様に、私から訊いたことをなんでも母に話してしまうであろうと警戒している。

(I) —— 線部(6)について。その内容として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 島で起きている困った事件も、うわさ話として共有し、笑いの種に変えてしまう活力のある世界。

2 高齢者が増え、新しい状況が生じても、それに柔軟に対応することのできない取り残された世界。

3 普通と異なることが起きると、誰もがそれに関与し、普通の状態に戻そうとする道徳的な世界。

4 島民の誰もが親戚のような関係性で互いの生活を気にかけて、互いを思いやる親密な世界。

5 島の中の小さな出来事に誰もが関心を持ち、噂話があつという間に広まってしまふ窮屈な世界。

(J) 母がニルヴァーナを大音量で聴きながら人形の服を縫っている理由について、本文の範囲で推測するならば、どのように説明することができるか。「大音量の音楽と細かい手作業」という言葉を使って「 」は不要、句読点とも四十字以上五十字以内で記せ。

(K) 本文の内容と合致するものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 私は、大音量でニルヴァーナを聴く母の姿と高校生時代の自分との類似性に思い当たり、そのことを手掛かりにして母の問題を解決しようと試みた。
- 2 田所のおばちゃんをはじめ近隣に住む人々は、私の一家のことを気にかけて、問題の解決に向けての助力を惜しまなかった。
- 3 私は、父母に事実をそのまま伝えるのははばかられるように感じる事情を抱えて、出産のために一人で故郷の島に戻っていた。
- 4 母は、高校生の時代に私が聴いていたニルヴァーナの音楽に共感することで、その時代の私の気持ちに触れるような体験をした。
- 5 母は、一度は父との熟年離婚を望んでいたが、周囲の人たちからのアドバイスを得て、父との関係を改善して離婚の危機を回避した。

二 左の文章を読んで後の設問に答えよ。ただし、設問の関係で返り点、送り仮名を省いたところがある。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

孔子觀^{ルニ}於魯^(注1)桓公^{くわんこう}之廟^{こう}有^リ二^(注2)欹器^{きき}焉^(注3)。夫子^{ふうし}問^{ヒテ}於守^ル廟者^ニ曰^{ハク}此謂^フ何器^ト。對^{ヘテ}曰^{ハク}此蓋^シ為^リ二⁽¹⁾宥坐^{ゆうざ}之器^ト。孔子曰^{ハク}吾聞^ク宥坐之器^ハ虚^{ナレバ}則^チ欹^{カたむキ}中^{ナレバ}則^チ正^{シク}。滿^{ツレバ}則^チ覆^ル。明君以^テ為^ス二⁽²⁾至誠^ト。故常置^ケ之^ニ於坐^ノ側^ニ。顧^{ミテ}謂^フ弟子^ニ曰^{ハク}試^ミ注^ゲ水^ヲ焉^(注5)。乃^チ注^グ之^ニ水^ヲ中^{ナレバ}則^チ正^{シク}。滿^{ツレバ}則^チ覆^ル。夫子喟^キ然^{トシテ}歎^タ曰^{ハク}嗚^ア呼^ア夫物惡有^ル滿而不覆^ル哉^(注6)。子路進^{ミテ}曰^{ハク}敢^テ問^フ持^テ滿有道^乎乎⁽³⁾。子曰^{ハク}聰明叡智^{ナレバ}守^{ルニ}之^ヲ以^テレ^(注7)、功^ヲ被^レ二^(注8)天下^ヲ守^{ルニ}之^ヲ以^テレ謙^ヲ。此所謂^ル損^ノ之又損^ノ之道^也也⁽⁴⁾。

『孔子家語』による

(注) 1 魯桓公——魯国第十五代国君。

2 欵器——傾いた器。

3 夫子——孔子のこと。

4 中——適量。

5 喟然——ため息をつくさま。

6 子路——孔子の弟子。

7 怯——臆病。

8 四海——四方の海の内。天下。

問

(A) ——線部(1)の読みとして最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 むしろ 2 かつて 3 ただ 4 けだし 5 いやしくも

(B) ——線部(2)の書き下しとして最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 夫れ物の悪^{みにく}きの満^みつる有^あらば覆^{おほ}らざるかな

2 夫れ物の悪^{みにく}きの満^みちて覆^{おほ}らざるもの有^あらんや

3 夫れ物の悪^{にく}むこと満^みつる有^あらば覆^{おほ}らざるかな

4 夫れ物は悪^{いづ}くんぞ満^みちて覆^{おほ}らざるもの有^あらんや

5 夫れ物は悪^{いづ}くんぞ満^みつる有^ありて覆^{おほ}らざるかな

(C) ——— 線部(3)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 満ちた状態を保つ方法がありますか

2 満ちた状態よりもさらによりよい状態があるのですか

3 十分に準備をすれば徳を実践できますか

4 十分に準備をするにはどんな方法がありますか

5 十分に準備をして待てば道は開けますか

(D) 空欄 に入る語として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 愚

2 恭

3 恥

4 疑

5 信

(E) ——— 線部(4)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 民の不満を効果的に解消する方法

2 功を得るための労力を軽減する方法

3 器の水をできる限り減らす方法

4 権力者の力を徹底的に削ぐ方法

5 おごらずに自らを戒める方法

(F) 本文の内容と合致するものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 「宥坐之器」に水をいっぱい注いでもひっくり返さない者こそ君主にふさわしい。

2 「損之又損之」はよく知られたことばであったが、孔子は支持していない。

3 君主は「宥坐之器」を公開し、民に自らを戒めるための座右の器とさせた。

4 孔子は器から得られる教訓を述べて、子路の質問に対する否定的な考えを示した。

5 孔子は桓公の廟にある「宥坐之器」が本物ではないことを見破り、弟子に水を注がせた。

三 左の文章は、『源氏物語』の「夕霧」の巻の一節で、夕霧（大将殿）が一条宮に住む落葉の宮との新たな結婚生活に入ると、それまで三条殿で夕霧と同居結婚をしていた長年の妻である雲居雁（三条殿、上）が子供たちのうちの何人かを連れて父（大殿）の邸に里帰りしてしまう場面から始まる。これを読んで後の設問に答えよ。（解答はすべて解答用紙に書くこと）

かくせめても見馴れ顔につくりたまふほど、三条殿、限りなめりと、さしもやはとこそかつは頼みつれ、まめ
(注1) 人の心変るはなごりなくなむと聞きしはまことなりけり、と世を試みつる心地して、いかさまにしてこのなめげ
(a) (b) さを見じと思しければ、大殿へ方違へむとて渡りたまひにけるを、女御の里におはするほどなどに対面したま
(注2) うて、すこしもの思ひはるけどころに思されて、例のやうにも急ぎ渡りたまはず。大将殿も聞きたまひて、され
(注3) ばよ、いと急にものしたまふ本性なり、この大殿も、はた、おとなおとなしうのどめたるところさすがになく、
いとひききりに、はなやいたまへる人々にて、めざまし、見じ、聞かじなど、ひがひがしきことどもし出でたま
(b) (c) うつべき、と驚かれたまうて、三条殿に渡りたまへれば、君たちもかたへはとまりたまへれば、姫君たち、さて
はいと幼きとをぞ率ておはしにける、見つけてよろこび睦れ、あるは上を恋ひたてまつりて愁へ泣きたまふを、
心苦しと思す。

消息たびたび聞こえて、迎へに奉れたまへど御返りだになし。かくかたくなしう軽々しの世やと、ものしうお
ぼえたまへど、大殿の見聞きたまはむところもあれば、暮らしてみづから参りたまへり。寝殿になむおはすると
て、例の渡りたまふ方は、御達のみさぶらふ。若君たちぞ乳母に添ひておはしける。「今さらに若々しの御まじ
(注5) らひや。かかる人を、ここかしこに落としおきたまひて、など寝殿の御まじらひは。ふさはしからぬ御心の筋と
(注6) は年ごろ見知りたれど、さるべきにや、昔より心に離れがたう思ひきこえて、今はかくくだくだしき人の数々あ
はれなるを、かたみに見棄つべきにやはと頼みきこえける。はかなき一ふしに、かうはもてなしたまふべくや」
(7) と、いみじうあはめ恨み申したまへば、「何ごとも、今はと見飽きたまひにける身なれば、今、はた、なほるべ

きにもあらぬを、何かはとて。あやしき人々は思し棄てずは、うれしうこそはあらめ」と聞こえたまへり。「な(注8)
だらかの御答へや。言(注9)ひもていけば、誰が名か惜しき」とて、強ひて渡りたまへともなくて、その夜は独り臥(注10)
たまへり。あやしう中空(注10)なるころかなと思ひつつ、君たちを前に臥せたまひて、かしこ(注11)に、また、いかに思(注12)し乱(注13)
るらんさま思ひやりきこえ、やすからぬ心づくしなれば、いかなる人、かうやうなることをかしようおぼゆるんな
ど、もの懲(注14)りしぬべうおぼえたまふ。

(注)

- 1 かくせめても見馴れ顔につくりたまふほど——落葉の宮は夕霧を嫌っているのだが、夕霧は無理矢理に落葉の宮のもとに滞在して夫婦として馴染んでいるようなふりをしている。
- 2 女御——雲居雁の異母姉。冷泉院の女御。里下がりする時はいつも大殿邸の寢殿を使っている。
- 3 例のやうにも急ぎ渡りたまはず——いつもは里に帰ってもすぐ三条殿へ戻ってくるのであるが、今回はそうしない。
- 4 君たちもかたへは——夕霧と雲居雁との間にできた男の子たちのうちの何人かは。
- 5 例の渡りたまふ方は——雲居雁が里帰りする時にいつも使う部屋には。
- 6 御達——雲居雁に従って大殿邸にやってきた女房たち。
- 7 かくくだくだしき人の数々あはれなるを——このように手にかかる子供たちがかわいいのだから。
- 8 くだらぬかの御答へや——穏やかなお返事です。あきれたお返事だと言いたところを逆に剥いだ皮肉。
- 9 言ひもていけば、誰が名か惜しき——結局、あなたの悪評が立つだけだ。
- 10 中空なるころかな——落葉の宮には嫌われ、雲居雁には家出されて、どっちつかずだなあ。
- 11 かしこ——一条宮。

問

- (A) 線部(1)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
- 1 新しい女と結婚するなんてありえないと夫は私をすっかり安心させていたのに
 - 2 自分一人だけを大切にしたいと夫にずっとお願いしてきていて
 - 3 夫はどんなことがあっても離婚なんてしないと私に約束してくれたのに
 - 4 夫と仲睦まじく添い遂げようとこれまで信頼関係を作り上げてきていて
 - 5 夫が新しく妻をもうけて自分を見棄てるなんてことはあるまいと信じていたのに
- (B) 線部(2)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
- 1 忙しい人
 - 2 まじめな人
 - 3 愚かな人
 - 4 有能な人
 - 5 浮気な人
- (C) 線部(a)～(c)の助動詞の文法上の意味として最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、それぞれ番号で答えよ。ただし、同じ番号を何度用いてもよい。
- 1 過去
 - 2 詠嘆
 - 3 存続
 - 4 強意
 - 5 自発
 - 6 尊敬
- (D) 線部(3)の現代語訳を五字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。
- (E) 線部(4)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
- 1 夫婦喧嘩げんかを避けられるだろう
 - 2 ひどい目にあわないだろう
 - 3 悲しい思いをしないようにしよう

- 4 夫の失礼な態度を見たくない
- 5 顔を突き合わせていたくない

(F) ~~~~~線部(ア)~(ウ)は、それぞれ誰の動作・行為か。最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、それぞれ番号で答えよ。ただし、同じ番号を何度用いてもよい。

- 1 夕霧
- 2 雲居雁
- 3 落葉の宮
- 4 大殿
- 5 君たち
- 6 姫君たち

(G) 線部(5)は誰を指しているか。最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 子供たち
- 2 姫君たち
- 3 女房たち
- 4 若君たちと乳母
- 5 女房たちと乳母

(H) 線部(6)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 寝殿で女御と政まつりごとをしているなんて。
- 2 女御に頼ってばかりいるのは不愉快だ。
- 3 寝殿で女御と遊んでいるとはけしからん。
- 4 寝殿に行つて女御に仕えるべきではない。
- 5 女御と結託して私をないがしろにしないでほしい。

(I) 線部(7)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 形見の子供たちを見棄てられないはずだ。
- 2 互いに互いを見棄てることはできないだろう。
- 3 思い出のよすがを見棄てられるものか。

4 互いに互いを見棄ててしまうほうがまだ。

5 形見の子供たちを見棄てると言うのか。

(J) ——— 線部(8)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 妻の家出

2 子育ての放棄

3 夫婦喧嘩

4 家族の揉め事

5 色恋沙汰

(K) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 雲居雁は女御と会っておしゃべりをしたが、気持ちが悪れることはなかった。

ロ 大殿も雲居雁もこの一族の人々は皆、思慮深く謙虚な人柄だと夕霧は思っている。

ハ 三条殿に残っていた子供たちは、夕霧が帰宅すると喜んでまわりついてきた。

ニ 雲居雁が里に帰ってしまったのは自分が悪いのだと夕霧は思っている。

ホ 夕霧は、舅しゅうとの大殿にどのように思われても一向にかまわないと思っている。

【以下余白】

